

講座・イベントの ごあんない

イベント	日時	
■市民活動プラザむつあいの休館日変更(勤労感謝の日)	11月23日(月)	→ 11月24日(火)
■市役所 1F市民活動団体パネル展示	11月26日(木)	～ 12月9日(水)
■「Zoomって何?オンライン会議ツールを知り、活動に活かそう!」	11月29日(日)	14:00 ～ 16:00
■NPOマネジメント講座「クラウドファンディング」	12月12日(土)	19:30 ～ 21:00
■クリスマスオンライン交流会	12月20日(日)	15:00 ～ 17:00

NEW!

支援施設からのお知らせ

■プラザむつあい 休館日変更のお知らせ

11月23日(月)は勤労感謝の日のためプラザむつあいは開館いたします。
振替として下記の通り休館日が変更となります。

・11月23日(月・祝)開館、11月24日(火)休館

■年末年始の休館日のお知らせ

推進センターは年末は12月28日(月)まで、年始は1月4日(月)から開館いたします。プラザむつあいは年末は12月27日(日)まで、年始は1月5日(火)から開館いたします。

■市民活動パネル展 展示期間

11月26日(木)～12月9日(水)の期間、藤沢市役所1Fラウンジにて、市民活動団体のパネル展を実施します。お近くをお通りの際はぜひご覧ください。

展示期間：11月26日(木)～12月9日(水)

場所：藤沢市役所 1F ラウンジ

■センター・プラザ同時開催

「Zoomって何?オンライン会議ツールを知り、活動に活かそう!」

オンラインでのコミュニケーションツールとして、関心が高まっている「Zoom」。センター・プラザをつないで、団体の会議などへの導入に必要なことを学びます。

日時：2020年11月29日(日) 14:00～16:00

内容：Zoomを活用するとできること(予定) ほか

料金：500円

対象：NPO・市民活動・地域活動に関わっている方で、オンラインを活用した会議手法を学びたい方

問合・申込：市民活動推進センター又は市民活動プラザむつあい

■NPO マネジメント講座

「はじめてのクラウドファンディング」講座

資金調達の方法のひとつ、クラウドファンディング。はじめるにあたってのポイントを学んでみませんか?

日時：2020年12月12日(土) 19:30～21:00

会場：市民活動推進センター 会議室 A または オンライン

内容：はじめるにあたってのポイントや活用事例

料金：500円

対象：NPO・ボランティア団体で活動している方で、クラウドファンディングでの資金調達に興味関心のある方

定員：会場 15名、オンライン 15名

問合・申込：市民活動推進センター



■クリスマスオンライン交流会

市民活動団体や、市民活動に興味をお持ちの個人・企業の皆様が広く交流できる機会として、クリスマス「オンライン交流会」を実施します。市民活動団体のCM紹介や、Zoomを介したグルーブトークを通じて、藤沢の市民活動団体やその活動を知るキッカケとしてご活用ください。

日時：2020年12月20日(日) 15:00～17:00

内容：NPO 四方山話、団体CMライブラリー ほか

料金：無料

対象：NPO・市民活動に興味がある方

問合・申込：市民活動推進センター



実施内容のうち、「団体CMライブラリー」につきまして、参加団体を募集しています。CM動画を未作成の団体向けには無料講座も予定していますので、ご興味ございましたらセンターまでお問合せください。(講座日程：11月23日(月)、30日(月) 19:00～21:00)

発行：藤沢市市民活動支援施設

本館：市民活動推進センター

開館時間 9:00～22:00 火曜休館

〒251-0052

神奈川県藤沢市藤沢 1031 小島ビル 2 階

TEL: 0466-54-4510 FAX: 0466-54-4516

Eメール: f-npoc@shonanfujisawa.com



分館：市民活動プラザむつあい

開館時間 9:00～19:00 月曜休館

〒252-0813

神奈川県藤沢市亀井野 4-8-1 六会市民センター 2 階

TEL&FAX: 0466-81-0222

Eメール: f-npoplaza@shonanfujisawa.com

URL: http://plaza6i.f-npon.jp/



編集：認定 NPO 法人 藤沢市市民活動推進機構 (藤沢市市民活動支援施設 指定管理団体)

※この情報誌は、サポートクラブのメンバーのご協力により、皆さまのお手元に届いております♪
サポーターも随時募集中です!



遊行寺坂を上ったところにある民家の庭先には、歴史を感じさせる蔵。足を踏み入ると木や建物の独特なおいとともに、不思議な形をした動物たちが出迎えました。室内の様子や残された物が過去の生活の痕跡を残しつつも、浮世離れた光景。蔵の扉が別世界につながっていたかのような感覚にさせられます。

藤沢では毎年秋になると、元々藤沢宿として栄えた地区を中心に「藤沢今昔・まちなかアートめぐり(以下、まちなかアート)」

が開催されています。宿場町の風景を今に伝える歴史的建造物を舞台に、空間的魅力を活かした展示を行うアートプロジェクトです。取材に訪れた有田家とその土蔵も、2018年に国の有形文化財として登録されています。

今回は実行委員会の代表幹事、伊東直昭さんにお話を伺いました。展示初日である10月31日は天気にも恵まれ、巡りまわるには絶好の日和。すでに近所の方々が展示を見に足を運んでいました。(つづく)



■ 特集: まちめぐりから見える「場」の大切さ

まちなかアートがスタートしたのは、今からちょうど 10 年前の 2010 年。「建物の所有者をはじめ様々な方のご理解を得て、芸術家仲間とともにプロジェクトを作り上げています。色々な面で協力をいただく中で、人とのつながりも増えてきました。」と、伊東さんは語りました。もとの藤沢宿周辺を舞台に、土蔵や商店、お寺の境内など、歴史ある景観を活用しての展示・発表。住民の方々だけではなく、行政など様々な協力を取り付けつつ続いてきました。



歴史的建造物はそれぞれ独特の雰囲気を持っています。まちなかアートではそうした個性を最大限に活かしつつ、展示内容との調和や対比によって芸術と一体となった空間を作り出しています。

有田家の味噌蔵では、もともとあった石臼や火鉢などをそのままに、作品が展示されていました。「普通にギャラリーを借りると、展示するのは白い壁。ところがまちなかアートでは壁のシミやくぼみですら作品を縁取る「枠」になります。」と、伊東さんは言います。実際に薄暗い蔵の中で見る作品は不思議な存在感を醸し出しており、作品と空間がお互いのあり方に影響し合っているかのようでした。

今年は検温・消毒など新型コロナウイルス感染症の対策をしながらの開催となりました。海外からのアーティスト招致は難しかったものの、展示については例年通りに近い形での実施が実現しました。元々の展示場所が分散していたこともあり、密にならずに楽しむことができます。

伊東さんは今年度の開催に至る思いを、次のように言います。「今年の状況ではアートイベントでも、ネットを通じて配信する形にした場所もありました。ただ、やっぱりめぐって、歩いて、見てという体験は大事。リアルにやるというところについては中々譲れない部分があります。」

新型コロナウイルス感染症の拡大により、団体の活動も普段の生活も、とかくリモートに頼る面が増えてきている昨今。まちなかアートの展示場所では、遠のきつつある現実の「場」や「体験」の大切さを改めて気づかせてくれます。



「藤沢今昔・まちなかアートめぐり 2020」は 11 月 23 日までの土、日、祝日に開催しています。

(取材 / 記事作成 関野・佐久間)

団体紹介

藤沢今昔まちなかアート実行委員会

代表幹事 伊東直昭
設立: 2010年1月
問合せ: fsmuse0911@yahoo.co.jp
090-1212-4415
HP: <https://f-artkonjaku.tumblr.com/>



藤沢今昔・まちなかアートめぐりは美術家有志により、旧東海道藤沢宿周辺で2010年に始まったアートプロジェクトです。毎年秋に歴史的建造物やその周辺施設を会場として、現地制作や展示、ワークショップやシンポジウムを行なってきました。

宿場町の成立より古くからこの地にある寺社から、明治以降の近代化の足跡を伝える蔵や町家まで。それぞれの歴史を持つ建造物の魅力を伝えていくとともに、美術家自身の新たな模索や探求の機会を作り出しています。

例年では海外アーティストの招致によるアーティスト・イン・レジデンスの実施や、他のアートイベント関係者の視察受け入れなど、交流活動も積極的に行っています。



組織の健康診断で「今」を可視化

NPO TIPS

組織運営を説明する際に「船」に例えて説明することがあります。積荷は「事業」、船体は「組織」となり、バランスが大事であることをお伝えします。組織基盤がしっかりしていないと、大きな事業を進めていても、事業継続が危ぶまれるケースもあります。

今回で紹介するのは、「他者」に組織基盤がしっかりしているかどうかを判断してもらうのではなく、「自分」で組織のことを知るための手法です。

「セルフチェックツール 組織を支える 17 の視点」
実施団体: 認定 NPO 法人藤沢市民活動推進機構
(藤沢市市民活動支援施設 指定管理者)

本ツールは組織に関わる 17 の質問に回答することで、組織基盤強化につながる団体の組織力の「今を知る = 現状把握 (基本的な項目の意識・認識の状況)」を目的にして

います。

団体の現状をデータ化し、団体に合わせた課題解決手法の提案などを行う他、必要に応じて第三者評価を受ける準備を支援します。

シート結果 (集計結果表) により、組織課題の改善を求めるものではありません。組織には個性があり、解決すべき課題は多種多様です。解決方法も画一的ではありませんので、団体で活動している人たちが、自分たちの組織の良い所、弱い所 (改善しなくてはいけないところ) を知ることが組織課題への「はじめの一歩となります。それらを 17 の視点から意識の確認をするのがセルフチェックであり「組織の健康診断」です。

推進センターやプラザむつあいでは、集計結果表の読み方や今後の団体の方針につ

いてご相談を承っておりますのでお気軽にご相談ください。

また、本プログラムを紹介するサイトが 2020 年 10 月よりオープンしましたので、ご興味ありましたらこちらもぜひご覧ください。(ほ)



17 の視点でみる組織診断
-NPO セルフチェック -
<https://17eyes.jp/>



なぜなに NPO

vol.136



ペーパーレス→サステナビリティ

推進センターとプラザむつあいでは、利用者の皆様のご利用数を報告するために、利用の都度利用表のご記入をお願いしています。皆様のご協力のもと常に正確な集計が取れており、大変感謝しています。とはいえ、いちいち面倒だと思われる方もいらっしゃることは理解しています。また、コロナ禍ではできるだけ接触を避ける必要が出てきています。

そこで、10月28日より推進センターでは、電子利用表を試験的に導入し、ペーパーレス化に向けて第一歩を踏み出しました。

ペーパーレスは、もともと環境への配慮とコスト削減という観点から資料の電子化が進められ、2004年には「e-文書法」が制定されたことにより、スキャンした文書も正規文書として認められるようになりました。さらに東日本大震災において、無尽蔵に消費できると思われた電力の供給が制限されるという経験をする事になり、働き方の変化を余儀なくされました。その後、2019 年4月1日に施行された「働き方改革関連法」では業務の効率化やコストの削減の効果的な手法として、ペーパーレス化を推奨しています。現在、働き方改革はコロナ禍という人類の危機を乗り越えるための手法の一つ

として加速度的に進んでいます。昨日まで当たり前だった集合会議も、オンライン会議となり、出社せずとも仕事が進みます。そうしたことから、生活の基本的な習慣も変化してきたのですが、仕事に対する意識も変化しているように感じています。

ペーパーレス化が進むにつれ、作業量が軽減するかどうかによって増えるという場合もありますが、総合的にみると時間の短縮につながるということが経験の中から見えてきました。社会環境的にも取り組まなければならない状況になっていきます。先日、ある市民活動団体の解散にあたり、古い資料の行き先を探してくださいとの連絡を受けました。ミカン箱くらいの段ボールが一つです。中には手書きの資料と手作りの会報誌が入っていました。その資料は市民活動の初期の事例として貴重なものですが、場所の関係で行き場を失っていました。今後、少しずつ電子データ化をして、個人的にでも残していくことにしました。場所の問題を回避するにはひと手間かけてペーパーレス化しておくことも活動の持続可能性 (サステナビリティ) を高めることになりそうです。SDGs の目標達成にも貢献できるのではないのでしょうか。(て)